

# 近年府内で発生を警戒している病害虫

## ■ さつまいも <sup>もとぐされ</sup> 基腐病 (令和4年府内で確認)

- 感染すると、葉の黄変・萎凋などの症状が現れ(図5)、茎の基部が暗褐色～黒色に変色する(図6)。
- 進行すると茎葉の枯死(図7)、塊根の腐敗を生じる(図8)。
- 株元からイモへ病徴が進展するので、イモはなり首側から腐敗する。
- 見た目が健全なイモでも、貯蔵中や輸送中に発病することがある。
- 寄主作物はかんしょ(さつまいも)、エンサイ(空心菜、あさがおな)などのヒルガオ科のみ。
- 病原菌が感染した塊根(種イモ)や感染苗で伝搬する。
- ほ場に残った被害残渣で越冬し翌年の一次伝染源となる。
- 風雨や停滞水によって感染が広がるため、畝および畝間に沿って発生が拡大する。

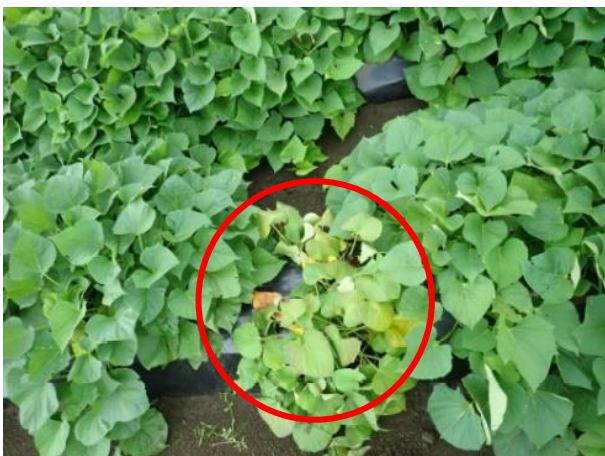


図5 被害葉の変色(※)



図6 被害株基部の変色



図7 被害葉の茎葉の枯死(※)



図8 被害株の塊根腐敗(※)

※図5、図7、図8

生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業(01020C)

令和2年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」より